

## (ご案内)

# iCONM/CHANGE 市民公開講座 川崎の南端は世界の最先端ナノです ～川崎市臨海部での取組み紹介～

川崎市産業振興財団ナノ医療イノベーションセンター (iCONM) では、私たちが取り組む研究内容や社会貢献活動をご紹介する機会として、市民公開講座を毎年 2-3 回開催させて頂いております。この度、今年度最後の講座を2月8日(土)午後2時～4時、以下の内容にて開催いたします。世界的な成長が見込まれるライフサイエンス・環境分野を中心に、世界最高水準の研究開発から新産業を創出するオープンイノベーション拠点「川崎殿町キングスカイフロント地区 (KSF)」が拓けた歴史的背景や今後の展望について KSF を管轄する川崎市臨海本部の嶋村氏および、長年、川崎市臨海部に立地する企業に勤め、iCONM 副センター長を経てアドバイザーとして同センターの活動を支える岩崎氏が解説します。また、その中核拠点となる iCONM が、どのようにこのような多様性の高い組織をマネージし、世界最先端の研究を行う環境を整えているかなど、今回は研究そのものでなく研究支援組織に焦点をあてます。また、2022年10月から始まった国家プロジェクト COI-NEXT 川崎拠点 (プロジェクト CHANGE) についてもご紹介します。このプロジェクトは、看護 X 工学の連携によりケアイノベーションを起こし、未来の私たちの暮らしをより安心できるものにするための取組みです。

## 記

**日時：** 2025年2月8日(土) 午後2時～4時(午後1時45分開場)

**場所：** ZOOM ウェビナーによるオンライン開催

**参加費：** 無料

**事前登録：**

[https://us06web.zoom.us/webinar/register/WN\\_Lzt6vtziS2ypcuThS\\_MeSQ#/registration](https://us06web.zoom.us/webinar/register/WN_Lzt6vtziS2ypcuThS_MeSQ#/registration)

**申込締切：** 2025年2月8日(土) 13時

## <プログラム>

**開会挨拶：** 片岡一則 ナノ医療イノベーションセンター・センター長/川崎市産業振興財団副理事長

**講演 1：** キングスカイフロントの今と昔

嶋村敏孝 川崎市キングスカイフロントマネジメントセンター所長

**講演 2：** 世界一を目指す川崎市臨海部

岩崎廣和 ナノ医療イノベーションセンター アドバイザー

**講演 3 :** 創立 10 周年を迎えるナノ医療イノベーションセンター (iCONM)

永井浩二 ナノ医療イノベーションセンター副センター長/プロジェクト CHANGE 副 PL

**講演 4 :** プロジェクト CHANGE が変える未来の暮らし

島崎 眞 ナノ医療イノベーションセンターコミュニケーションマネジャー/プロジェクト CHANGE 副 PL

## 総合討論

**司会 :** 荻谷遊子 ナノ医療イノベーションセンター研究支援専門職員

### <演者紹介と発表要旨>

**講演 1 :** キングスカイフロントの今と昔

嶋村 敏孝

川崎市臨海部国際戦略本部 成長戦略推進部

キングスカイフロントマネジメントセンター 所長



#### 略歴 :

1995 年、川崎市役所入庁。中小企業、スタートアップ支援、製造業の操業環境向上支援などの産業政策に従事。2011 年より、キングスカイフロントの拠点形成業務に従事し、国際戦略総合特区制度などの国の制度を活用した企業・研究機関の誘致を推進。また、2018 年より、担当課長としてマネジメント組織やインキュベーション施設の立ち上げを行い、2023 年より現職。

#### 講演要旨 :

いすゞ自動車の工場があった約 40 ヘクタールの土地に「キングスカイフロント」と名前を付け、約 80 の企業・研究機関が集積し、国際戦略拠点として発展するまでの成り立ちと、今について述べます。さらに、これからも発展し続けるキングスカイフロントについてもお話しする予定です。

**講演 2 :** 世界一を目指す川崎市臨海部

岩崎 廣和

川崎市産業振興財団 参与

同財団ナノ医療イノベーションセンター アドバイザー



#### 略歴 :

長野県飯田市出身。1975 年東京大学工学部工業化学科を卒業。同年昭和電工株式会社に入社、川崎工場化学品課、試験技術、中央研究所兼化学品研究所に勤務。1979 年昭和電工労働組合専従(休職)となり、支部執行委員、副支部長、中央執行委員、中央書記長を務め、1989 年昭和電工中央執行委員長。1996 年化学総連会長、連合中央執行委員を兼任。1999 年復職し、化学品開発部、本社品質保証部、技術戦略部に勤務。2006 年知的財産室長、2008 年コーポレートフェロー 知的財産室長。2009 年執行役員 知的財産室長、2010 年同 化学品事業部長、2011 年取締役執行役員 化学品事業部門長、2013 年同、事業所管掌。2015 年川崎市産業振興財団に入職し、理事、ナノ医療イノベーションセンター副センター長を務める。2022 年同財団を退職し、参与に就任、同センターアドバイザー。化学と工業 2014 年 7 月号「認定化学遺産 28 号 日本初のアルミニウム生産の工業化」などを執筆。

### 講演要旨：

今からおよそ 100 年前、大正から昭和に変わるころ、鶴見から川崎にかけての臨海地域を埋め立て、大工業拠点(現在の京浜工業地帯)にする事業が始まりました。職を求める人々が国内のほか近隣諸国から集まり、周辺地域の人口が急増しました。第二次世界大戦後、鉄鋼・非鉄金属を中心とした企業の立地、発電所建設、石油パイプラインとシーバースの整備によりコンビナートが形成された。次代を担う自動車、電機、石油化学などの新産業も発達し、日本一の工業地帯として日本の高度成長を推進していきました。しかし、今から 50 年前頃になると公害問題や、ニクソンショックと石油ショックなどにより、継続が難しくなる事業が多発するようになりました。各企業はコストダウンによる事業存続、新事業開発による体質転換の努力を続けましたが、撤退する企業も多くなりました。この状況を打開すべく、川崎市は、拡大する遊休地を活用し、新たな産業により臨海部を再生する戦略を立てました。その重要拠点がキングスカイフロントです。「川崎の最南端は世界の最先端！」というキャッチフレーズは、川崎臨海部は日本一ではなく世界一でなくてはならないという強い決意表明だと思います。本講演では、日本一から世界一を目指す川崎臨海部の成り立ちを私が勤めた昭和電工の事例もあげて概説します。

### 講演 3： 創立 10 周年を迎えるナノ医療イノベーションセンター (iCONM)

永井 浩二

川崎市産業振興財団ナノ医療イノベーションセンター副センター長

COI-NEXT 川崎拠点 (プロジェクト CHANGE) 副プロジェクトリーダー



#### 略歴：

岐阜県生まれ、愛知県育ち。名古屋大学農学部卒業。農学博士（東京大学）。1985 年山之内製薬株式会社に入社し、理化学研究所や産業技術総合研究所にも籍を置いて醗酵天然物からの創薬研究に従事。2005 年アステラス製薬株式会社発足時より、研究所のマネジメント職を歴任。2014 年大鵬薬品工業株式会社研究所長。2019 年 iCONM に入職し、文科省/JST COI プロジェクトの研究推進コーディネーターを経て、2022 年 4 月より副センター長。2022 年 10 月プロジェクト CHANGE (COI-NEXT 川崎拠点) 副プロジェクトリーダー

#### 講演要旨：

殿町キングスカイフロントの中核機関として、川崎市の支援のもと 2015 年に活動を開始したナノ医療イノベーションセンター（通称 iCONM）は、今年で創立 10 周年を迎えます。羽田空港に近接した立地や、産学官による多機関連携型アンダーワンルーフ拠点といった施設の特徴を活かし、国内外の多様な人材の連携によるオープンイノベーション体制を整え、ナノバイオテクノロジーを駆使した新たな医療技術の研究開発と社会実装を推進してまいりました。本講演では、これまでの研究活動とその成果とともに、独自のイノベーション創出の仕掛けについてお話します。

### 講演 4： プロジェクト CHANGE が変える未来の暮らし

島崎 眞

川崎市産業振興財団ナノ医療イノベーションセンター コミュニケーションマネジャー

COI-NEXT 川崎拠点 (プロジェクト CHANGE) 副プロジェクトリーダー



**略歴：**

川崎市出身。薬学博士。1983 年東京薬科大学大学院薬学研究科修了。同年豊年製油（株）に入社。1986 年に同社を退職し、東京薬科大学助手。1992 年より同学大学院専任講師。1996 年バイエル薬品（株）中央研究所主任研究員。2003 年同社広報部長。2012 年テバ製薬（株）執行役員広報本部長。2015 年大塚製薬（株）執行役員。2019 年 iCONM 入職。現在に至る。Scripps Research Institute (米国カリフォルニア州)博士研究員、理化学研究所客員研究員としても創薬研究に従事した他、日本製薬工業協会広報委員会副委員長、日本放射性医薬品協会広報委員会監事、日本薬学会広報委員会小委員長として医療・科学広報の領域でキャリアを積んだ。

**講演要旨：**

高齢化率で世界のトップを走る日本では、高齢化による患者・療養者の増加と少子化による医療者不足といったアンバランスな状況が、将来の私たちの暮らしに暗い影を落としつつあります。病院の病床数には限りがあるため、コロナ禍の時と同様に比較的体調の良い方は在宅療養が求められます。病院では医師や看護師が 24 時間ケアできますが、在宅でそれは容易なことではありません。それゆえに、家族や本人でも扱えるケア用品の普及と「ケアする力」の醸成が必要です。2022 年 10 月から始まった国家プロジェクト COI-NEXT 川崎拠点（プロジェクト CHANGE）では、看護と工学の連携によるケアイノベーションに注力し、より安心できる未来の暮らしを思い描きながら健康長寿社会の実現を目指しています。